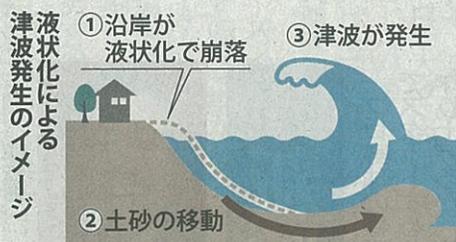


PICK UP

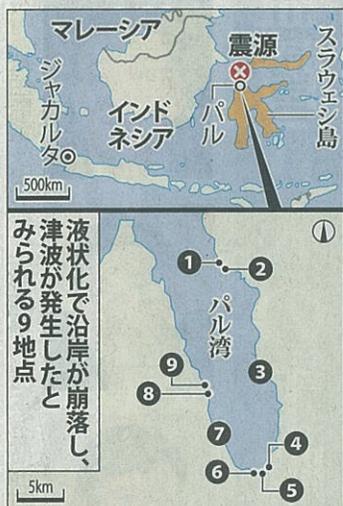
ピックアップ

沿岸の崩落で大津波に

インドネシア地震 9地点同時多発



昨年9月にあったインドネシアの地震で、スラウエシ島のパル湾を襲った大津波は、液状化で湾内の少なくとも9地点、計約25万平方メートルの沿岸が海に崩落して高さを増したとの



分析結果を、港湾空港技術研究所の佐々真志研究グループ長がまとめた。沿岸の液状化による津波が同時多発したのを確認したのは世界で初めてという。特に震源から数十キロ離れたパル湾内で津波が高くなり、最大6メートルに達した。被害は局所

的で、主な津波の原因は断層のずれによる海底面の変動ではなく、湾沿岸の地すべりが指摘されていた。佐々さんは湾の衛星写真を地震の前後と比較し、海岸部が大きく消失した場所を確認。現地調査でその付近が液状化したことも確か

めた。沿岸が崩れた方向や規模は、地震直後に上空から動画撮影された津波の進む方向や規模とも一致した。

こうした地すべりは「液状化重力流」と呼ばれ、海底で発生したり、沿岸から海に流れ込んだりして津波を引き起こす。高さ3メートルの津波が起きた2010年のハイチ地震で1地点確認されたが、今回崩落した面積はその約10倍に達する。佐々さん

は「沿岸崩落による津波は到達時間が数分以内と極めて早い。断層のずれによる津波だけでなく、防災対策では液状化などによる津波も考慮する必要がある」と指摘する。

スラウエシ島では、

内陸部で起きた液状化による大規模な地盤流動（泥流）でも多数の犠牲者が出た。津波被害と合わせ、死者と行方不明者は確認されているだけで計3000人以上に上る。

インドネシアでは昨年12月にも、パル湾から約1700メートル離れたスンタ海峡で津波が発生し、400人以上が死亡した。地震はなく、火山島が噴火で崩落し、大量の土砂が海に流れ込んで津波を引き起こしたとみられている。

復興を支援する国際協力機構（JICA）の竹谷公男・上席国際協力専門員は「地盤流動と津波の両方が液状化に由来する歴史的な災害。詳しい現地調

査を踏まえて、被災住民の移転先を決める必要がある」と指摘する。

【池田知広】

欧州で新型加速器構想

【ワシントン共同】欧州合同原子核研究所（CERN）は、1周100キロメートルの新たな円形加速器の建設構想を発表した。宇宙の始まりを再現する実験施設で、建設地はスイス・フランス国境付近にある円形加速器LHC（1周27キロメートル）の近くを想定。2040年の実験開始を目指す。少なくとも90億円（約1兆1200億円）が必要とされ、専門家らが2年かけて実現可能性を探る。